

令和5年度 第1回亀岡市地域福祉計画策定委員会 議事録要旨

日時	令和5年8月30日（水） 14:00～16:00
場所	亀岡市役所別館3階会議室
出席者	岡崎委員長、竹内副委員長、三宅委員、青木委員、森永委員、酒井委員、八木委員、出藏委員、松村委員、西山委員、日下部委員、小島委員、保城委員 健康福祉部長 亀井 事務局 田端 佐藤 佐川
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状の交付 3 あいさつ 4 正副委員長選出 5 正副委員長あいさつ 6 自己紹介 7 会議内容 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域福祉について (2) 「第3期亀岡市地域福祉計画」中間見直しについて (3) グループワーク (4) 各グループ発表 (5) まとめ 8 その他 9 閉会

<次第>

1. 開 会

事務局から開会のあいさつ

2. 委嘱状交付

市長から各委員に委嘱状の交付

3. あいさつ

市長からあいさつ

4. 正副委員長選出

委員長に岡崎祐司委員、副委員長に竹内光雄委員を選出

5 正副委員長あいさつ

6. 自己紹介

7. 会議内容

(1)地域福祉について

岡崎委員長から説明

(2)「第3期亀岡市地域福祉計画」中間見直しについて

事務局から説明

(3)グループワーク

3グループに分かれ、「地域の福祉活動について」というテーマで、どういった福祉活動をしているのか、またその中で課題と感じていることなどについて討論する。

(4)各グループ発表

◆A グループ（三宅委員、竹内委員、酒井委員、日下部委員）

三宅委員より発表

- ・自治会の活動は個人情報保護の壁があり、もっと関わっていきたいが、支援が必要な人達の情報が見えない。
- ・障がいのある人の外出機会が減ってきている。外出中に感じるプレッシャーや、介護の担い手である家族の高齢化によって外出の機会が減ってきている。また、社会参加について、なかなか一歩が踏み出せなかったり家族が遠慮したりしている現状がある。
- ・コロナ禍においても、関連団体の支援があって、作業所での作業を継続できた。
- ・地域においても当事者団体においても、高齢化による担い手の不足が共通したテーマとなっている。若い人や社会で活躍してきた人など多様な人材をいかにして活動に結び付けられるか、意欲を育めるかが大事になってくるが、ひとつの方策として、ボランティアポイント制度を活用することが考えられる。また、ボランティアのあり方についても考えていく必要があるのではないか。
- ・今後の計画で、重層的支援体制整備事業の実施が盛り込まれるが、長期的な課題に対応していく体制整備が進められてほしい。

◆B グループ（青木委員、森永委員、出藏委員、小島委員）

青木委員より発表

- ・聴覚障がいに対する支援について、担い手が高齢化しており、若手の担い手を増やすことが課題である。
- ・災害時にお互いに声を掛け合っていくには、普段からコミュニケーションをとって情報交換をしておくことが大切である。安否確認にあたってはプライバシー保護の問題もあるが、新聞の溜まり具合を見て声をかける、渡した花が枯れたタイミングで声をかけるなどさまざまな手法を通して、まずは住民ができることを行って地域の中で情報共有をしていき、行政のサポートを得るのが良いのではないかと。
- ・また、安否確認の対象には、障がいのある人や高齢者だけではなく、連絡先がない人や関係性をつくるのが難しい、若い人もその対象とした方がよい。
- ・コロナ禍で人とのつながりが分断された感じがあるが、もう一度リアルな関わりの中で、お互いが主人公になってわくわく過ごせるような、そういう場づくりの再開が課題だと考える。
- ・コロナでリモートなどのコミュニケーションツールが増えた。
- ・コロナで顔と顔を合わせて集える場が大事だと改めて思った。
- ・行政主体ではなく、住民が主体となって動くことが大事。住民の中で核となる人をつくる必要がある。
- ・支援している、支援されているではなく、お互いが主役になれることが大事。

◆C グループ（松村委員、八木委員、西山委員、保城委員）

松村委員より発表

- ・関係団体としては、地域の中に入ってコミュニケーションをとりたいが、なかなか取れないのが現状である。集まるのが大事だと感じているので、今後行事等への参加を考えている。
- ・実際、コロナ後の夏祭りの開催は、地域の方に大変喜んでもらった。コロナ禍だからこそ、つながることが大切だと気付くきっかけができた。
- ・課題が複雑に絡まっている相談等があるので、重層的支援体制整備事業のような支援のあり方は重要である。ヤングケアラーについては、おかしいと感じたときに共有できる場所があればよいと考える。また、引きこもりそうなギリギリの相談が入ってくるなどがあり、支援のスタートが大切だと感じる一方で、なかなか踏みこんでいくのは難しい。
- ・役員のなり手がないなどの活動者の担い手不足もあり、サロンにおいても高齢化で活動を引き継ぐ人がないといったような面での担い手も不足している。自分たちのまちは自分たちで守り、住民主体でやっていくという意識が大切である。

(5)まとめ

岡崎委員長よりまとめ

8. その他

・事務局より日程説明

第2回策定委員会 令和5年11月

9. 閉会

竹内副委員長よりあいさつ